

淡路ヶ峠 登山

令和3年1月28日(木)淡路ヶ峠登山の下見に行ってきました。登山道は、桑原中学の生徒さんによってきれいに整備されており、片道1000mほどで市民の方が登山されておりました。(参加者3人)

山頂には小さな東屋と展望台がある。山頂付近の木は伐採され、景色が良い。高縄山地の末端に位置し、松山平野と接する所にあり、低い標高の割に山頂から松山平野や瀬戸内海まで見渡せる。地域の手軽なハイキングコースとして親しまれている。

伊藤博文と淡路ヶ峠

この山には400年程前に道後湯築城(現在の道後公園)の砦があった。砦の城主は林淡路守通起という人だったので、その名前から淡路城といった。そこから淡路城がある山ということで淡路ヶ峠とか淡路山と言うようになった。この林淡路守通起の11代目の子孫が伊藤博文である。

1909年(明治42年)伊藤が松山に道後温泉に入りに来たときは、淡路ヶ峠を麓から見上げて「来年、先祖の供養をしたい」といったという。なぜそのとき登らず来年といったのかは解らない。しかしその年に伊藤はハルビンで朝鮮民族主義活動家の朝鮮人・安重根に暗殺されてしまった。

この頃の夏目漱石

1905 吾輩は猫であるを子規門下である「山会」で発表。1906 ホトトギスに掲載。1906 坊ちゃんホトトギスに掲載、1907 朝日新聞社に入社(月給200円)、1909 満州・朝鮮を旅行、1910 修善寺の大患、



先ほどの登り口から400m先のT字路を左折、100mほどでいよいよ入山です。おまたせしました。ハイキングコース入口にはご親切にストックが用意されており、体力に自信がない方や初心者の方にやさしいお心配り。

